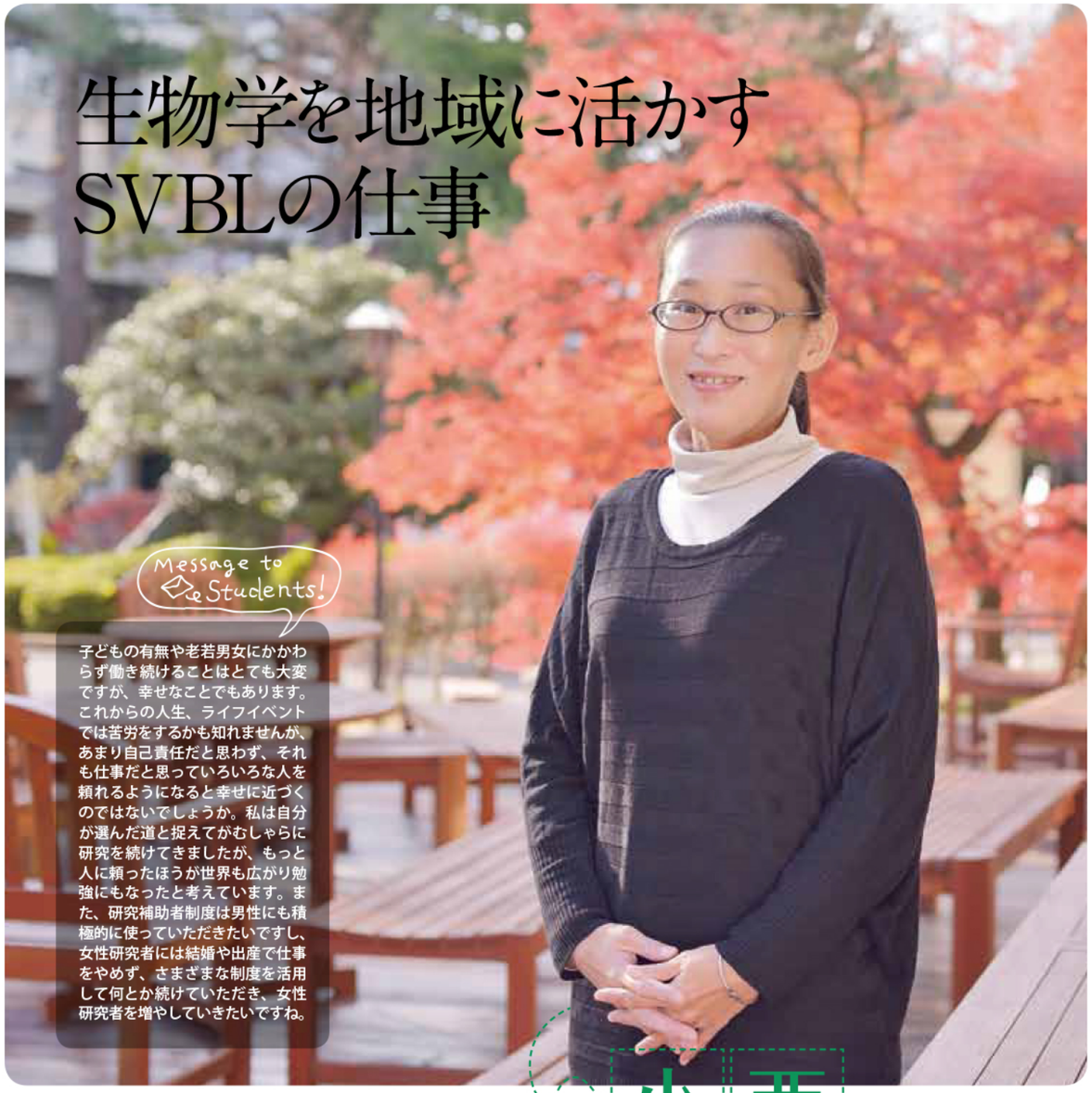
生物学を地域に活かす SVBLの仕事



Message to Students!

子どもの有無や老若男女にかかわらず働き続けることはとても大変ですが、幸せなことでもあります。これからの人生、ライフイベントでは苦労をするかも知れませんが、あまり自己責任だと思わず、それも仕事だと思っていろいろな人を頼れるようになると幸せに近づくのではないでしょうか。私は自分が選んだ道と捉えてがむしゃらに研究を続けてきましたが、もっと人に頼ったほうが世界も広がり勉強にもなったと考えています。また、研究補助者制度は男性にも積極的に使っていただきたいですし、女性研究者には結婚や出産で仕事をやめず、さまざまな制度を活用して何とか続けていただき、女性研究者を増やしていきたいですね。

2013年6月に沖縄で国際学会があった際に、家族も同行しました。7歳の長男と2歳の次男にとっては初めての沖縄の海でした。

小西 繭

Mayu Konishi

SVBL（サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー）研究員

信州大学理学部生物学科卒業。同大大学院工学系研究科地球環境システム科学専攻修了、博士（理学）学位取得。水産総合研究センター研究補助職員、信州大学奨励研究員、信州大学高等システムセンター非常勤講師、信州大学全学教育機構非常勤講師を経て、2008年4月より現職。また2011年3月までは信州大学理学部非常勤講師も兼任。2006年1月に第一子出産、2011年1月には第二子出産。同年7月までは育児休暇取得。なお、2000年4月～現在まで長野市立信里小学校講師も務めている（年1～3回の授業、2006年を除く）。

「研究補助者制度」のおかげで学生とも関わりあいが持てています

里山の保全と地域活性化を結びつける

私の所属は、信州大学SVBL（サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー）。若手研究者の研究開発プロジェクトの支援や高度な専門職業能力を持つ創造的人材の育成を目的とした施設です。理学部で培った生物学の知識を地域活性化に活かすのが私の仕事。例えば信州のような自然豊かな地の農作物はイメージもよいし、ブランド価値があるはずなのに、必ずしもそうしたイメージは持たれていません。そこで、長野県と東京都で農産物市場に関するアンケート調査を行い、意識の違いを数値化することで地元の農家には自信を持っていただき、都会の人には購買意欲をかき立てるような働きかけをしています。

また、長野の一部の里山にのみ生息する絶滅危惧種の小魚・シナイモツゴも研究対象で、何カ所もの池を回って個体ごとの遺伝子や形態の違いを調べたりしています。そんな時は「こんなに楽しいことをしながらお給料をもらってよいのかしら」と思いながら研究をしています。

産後2カ月で職場復帰そしてSBVLへ

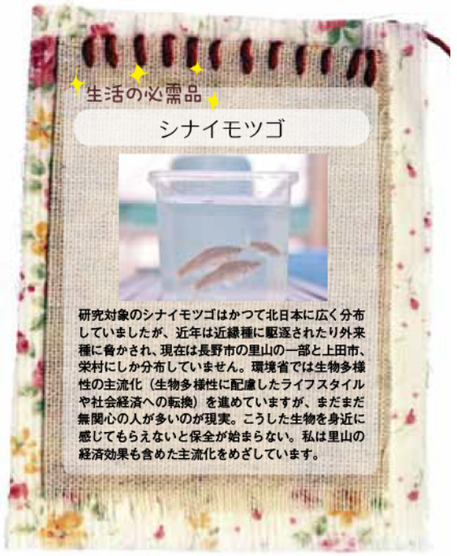
夫は長野県内に勤めているので、研究を続けるのなら信州大学がベストでした。学位取得後は研究生、研究補助職員、非常勤講師の3つの仕事をかけもちしていましたが、2006年に長男を妊娠。この立場では産休や育休を正式に頼めなかったため、学生や担当の先生にご協力いただいて、なんとか出産後2カ月の産休を取りました。

復学後の3年間は何も覚えていないくらいにボロボロで、体調も思わしくない状態が続きました。今考えれば「辛いから休む」と言ってもよかったと思うのですが、当時は学部内に同世代の女性や相談できる人がいなくてどうしてよいかわからず、とにかく毎日を何とか過ごしていました。

2008年からSVBLの研究員になり、仕事の中心が講義や実習から研究になって、安心して集中できるようになり、気持ちがとても楽になりました。ボロボロの状態でスタートした新米ママでしたが、子どもも元気に育っているし、私も壊れたわけではないので、非常勤講師は大変だったけれどよい経験になったと思っています。

目標はどんな形でも研究を続けること

研究補助者制度は2011年の女性研究者支援が始まった当初から利用しています。私の場合は研究員なので直接学生を受け持つことはありませんが、この制度によって学生と近くで関われる上に、彼らの指導教員とも共同研究をすることで新しい研究に着手できるので、本当によい制度だと実感しています。

また、女性研究者支援室が開設され、それまで相談するところがなかった育休制度等についても相談できるようになりました。尽力された室長の松岡先生とチームの皆さんは苦労もあったとは思いますが、大変感謝しています。私自身、研究と家庭の両立についてはまだまだ葛藤がありますし、研究者としては低空飛行ですが、それでも自分なりに納得できる形で研究も続けられています。いつか社会的役割という視点から自分のことが認められるようになるように努力しています。今はどんな形でも「研究を続けること」が私の目標です。

シナイモツゴの調査でお世話になっている里山地域での餅つき会に家族で参加しました。里山の人たちは関わりが増えていくうちにとても親切にしてくださって、大学よりもむしろ地域の人々に多くのことを教わったと感じています。自然な流れで地域の人とのつながりができました。